

2020年1月期 決算短信(REIT)

2020年3月18日

不動産投資信託証券発行者名	産業ファンド投資法人	上場取引所	東
コード番号	3249	URL	https://www.iif-reit.com/
代表者	(役職名) 執行役員	(氏名)	倉都 康行
資産運用会社名	三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社		
代表者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名)	岡本 勝治
問合せ先責任者	(役職名) 執行役員 インダストリアル本部長	(氏名)	上田 英彦
	(TEL) 03-5293-7091		

有価証券報告書提出予定日 2020年4月23日 分配金支払開始予定日 2020年4月17日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年1月期の運用、資産の状況 (2019年8月1日～2020年1月31日)

(1) 運用状況 (%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年1月期	11,049	4.2	6,519	4.8	5,572	7.3	5,571	7.3
2019年7月期	10,602	8.1	6,218	11.8	5,192	12.3	5,190	12.2

	1口当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	営業収益 経常利益率
2020年1月期	円 3,070	% 3.7	% 1.7	% 50.4
2019年7月期	円 2,997	% 3.8	% 1.7	% 49.0

(2) 分配状況

	1口当たり 分配金			分配金総額 (利益超過 分配金を 含む)	分配金総額 (利益超過 分配金は 含まない)	利益超過 分配金総額	配当性向	純資産 配当率
	(利益超過 分配金を 含む)	(利益超過 分配金は 含まない)	1口当たり 利益超過 分配金					
2020年1月期	円 3,085	円 2,964	円 121	百万円 5,799	百万円 5,572	百万円 227	% 100.0	% 3.7
2019年7月期	円 2,933	円 2,893	円 40	百万円 5,261	百万円 5,190	百万円 71	% 100.0	% 3.7

(注1) 2020年1月期の1口当たり利益超過分配金121円のうち、一時差異等調整引当額は2円、その他の利益超過分配金は119円です。また、純資産減少割合は0.002です。

(注2) 2019年7月期の1口当たり利益超過分配金40円のうち、一時差異等調整引当額は1円、その他の利益超過分配金は39円です。また、純資産減少割合は0.001です。

(注3) 2020年1月期及び2019年7月期の配当性向については、期中に新投資口の発行を行っていることから、次の算式により計算しております。配当性向=分配金総額(利益超過分配金は含まない)÷当期純利益×100

(3) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1口当たり純資産
2020年1月期	百万円 327,950	百万円 155,559	% 47.4	円 82,743
2019年7月期	百万円 314,087	百万円 141,873	% 45.2	円 79,081

(4) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
2020年1月期	百万円 9,114	百万円 △3,328	百万円 8,001	百万円 27,490
2019年7月期	百万円 6,363	百万円 △25,812	百万円 18,606	百万円 13,702

2. 2020年7月期の運用状況の予想（2020年2月1日～2020年7月31日）

（％表示は対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1口当たり 分配金 (利益超過 分配金を 含む)	1口当たり 分配金 (利益超過 分配金は 含まない)	1口当たり 利益超過 分配金
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	円	円
2020年7月期	10,984	△0.6	6,191	△5.0	5,259	△5.6	5,257	△5.6	2,800	2,796	4

（参考）1口当たり予想当期純利益（2020年7月期） 2,796円

※ その他

（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（2）発行済投資口の総口数

- ① 期末発行済投資口の総口数（自己投資口を含む）
- ② 期末自己投資口数

2020年1月期	1,880,016口	2019年7月期	1,794,016口
2020年1月期	0口	2019年7月期	0口

（注）1口当たり当期純利益の算定の基礎となる投資口数については、27ページ「1口当たり情報に関する注記」をご覧ください。

※ 決算短信は公認会計士または監査法人の監査の対象外です。

※ 特記事項

本資料に記載されている運用状況の見通し等の将来に関する記述は、本投資法人が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の運用状況等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。運用状況の予想の前提条件については、6～7ページ記載の「2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）及び2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）運用状況の予想の前提条件」をご参照下さい。

○目次

1. 運用状況	2
(1) 運用状況	2
(2) 投資リスク	7
2. 財務諸表	8
(1) 貸借対照表	8
(2) 損益計算書	11
(3) 投資主資本等変動計算書	12
(4) 金銭の分配に係る計算書	14
(5) キャッシュ・フロー計算書	15
(6) 継続企業の前提に関する注記	16
(7) 重要な会計方針に係る事項に関する注記	16
(8) 財務諸表に関する注記事項	18
(9) 発行済投資口の総口数の増減	29
3. 参考情報	30
(1) 本投資法人の資産の構成	30
(2) 保有資産の概要	31
(3) 資本的支出の状況	39

1. 運用状況

(1) 運用状況

A 当期の概況

i. 投資法人の主な推移

本投資法人は、「投資信託及び投資法人に関する法律」(以下「投信法」といいます。)に基づき2007年3月26日に設立され、2007年10月18日に東京証券取引所の不動産投資信託証券市場に上場(銘柄コード3249)しました。本投資法人は、『日本経済の力を産み出す源泉としての社会基盤に投資し、日本の産業活動を不動産面から支えていく』という理念のもと、本邦唯一の産業用不動産特化型の上場不動産投資信託(J-REIT)として、産業活動の基盤となる物流施設、工場・研究開発施設等、インフラ施設を対象として、投資及びその資産運用を行っております。

2007年に9物件、取得価格合計66,000百万円で運用開始して以降、順調に成長を続け、2020年1月31日現在、運用物件数72件、取得価格合計300,567百万円となっております。

ii. 投資環境と運用実績

当期(2019年8月~2020年1月)における実質国内総生産(GDP)成長率は、2019年7~9月期が前期比プラス0.1%(年率プラス0.5%)、2019年10~12月期(2020年2月17日発表の1次速報値)が前期比マイナス1.6%(年率マイナス6.3%)となりました。2019年10~12月期については、消費増税前の駆け込み需要の反動減に加え、大型台風や暖冬により家計消費が大きく落ち込んだほか、民間設備投資の減少もマイナスに寄与しました。

資本市場では、2019年10月に米連邦準備理事会(FRB)が今年3回目の利下げを実施した後、米中貿易協議が進展したこと等から景気後退回避への期待が高まり、株式市場は堅調に推移しました。しかし、2020年1月中旬以降は、中国で発生した新型コロナウイルス(COVID-19)による国内外の経済への影響が懸念され始めたことから、足元では不安定な推移となりました。

またJ-REIT市場では、東証REIT指数が、10月まで好調に推移した後、資本市場のリスクオンに伴う金利上昇に反応し、11月には一時的な下落局面を迎え、同指数は12月においてもやや軟調に推移しました。2020年1月には、物流系REITを中心とする公募増資が複数発表されましたが、J-REIT市場は堅調に推移しました。

このような状況下、本投資法人は強みとするCRE(Corporate Real Estate)提案を切り口とした物件ソーシング活動を継続しています。当期においては、公募増資の実施に伴い、5物件の取得を発表し、I I F 岐阜各務原ロジスティクスセンター(取得価格2,343百万円)の1物件を取得しました。なお、残り4物件については次期(2020年2月~2020年7月)に取得(予定)です。また、2019年8月1日付でI I F 厚木ロジスティクスセンター(準共有持分50%) (譲渡価格1,280百万円)を譲渡し、不動産等売却益485百万円を計上しております。

これらの結果、本投資法人の2020年1月31日現在の保有資産は、物流施設45物件、工場・研究開発施設等18物件、インフラ施設9物件、取得価格の合計は300,567百万円となっております。また、2020年1月31日現在の総賃貸可能面積は1,601,499.25㎡、平均稼働率については99.8%となっております。

iii. 資金調達の概要

本投資法人は、収益の安定的な確保と運用資産の持続的な成長を目的として、安定的かつ効率的な財務戦略を立案、実行することを基本方針としております。

a) エクイティファイナンス

本投資法人は、前期に引き続き2019年11月に公募増資を公表し、新規物件取得のための資金調達を目的とした新投資口86,000口(オーバーアロットメントによる売出しに伴う第三者割当を含みます。)の発行を行い、13,340百万円の調達を行いました。この結果、当期末時点の発行済投資口の総口数は1,880,016口となっております。

b) デットファイナンス

当期の有利子負債の調達については、新規物件の取得を目的として2019年11月29日に長期借入金14,000百万円(平均借入期間8.4年)を固定金利で新規に借り入れることを決定し、借入金融機関と金銭消費貸借契約の締結を行いました。2020年4月27日に3,000百万円、同年5月28日に7,000百万円、同年7月13日に4,000百万円を借り入れる予定です。また、2019年9月に長期借入金1,626百万円(借入期間9年)を固定金利で新規に借り入れ、

返済期限を迎える同額の長期借入金を返済しました。新規借入れ及び借換えを通じて、借入期間の長期固定化を図ること及び金利コストの削減効果により、長期に安定的な分配金を確保できる財務体質を構築しております。

その結果、本投資法人の2020年1月31日現在の有利子負債残高は156,583百万円、うち、長期借入金は146,583百万円（1年内返済予定の長期借入金を含む）、投資法人債は10,000百万円となっております。

iv. 業績及び分配の概要

上記のような運用の結果、当期の実績は、営業収益11,049百万円、営業利益6,519百万円、経常利益5,572百万円となり、当期純利益5,571百万円となりました。

分配金については、租税特別措置法第67条の15第1項の適用により、利益分配金が損金算入されることを企図して、投資口1口当たりの利益分配金が1円未満となる端数部分を除き、投信法第136条第1項に定める利益から一時差異等調整引当額の戻入れ額を控除した額の全額である5,572,367,424円を利益分配金として分配することとしました。また、所得超過税会不一致及び純資産控除項目が分配金に与える影響を考慮して、本投資法人が決定する金額による利益超過分配を行うこととし、当期については、所得超過税会不一致に相当する額として、投資口1口当たりの利益超過分配金が1円未満となる端数部分を除き算定される3,760,032円を、一時差異等調整引当額に係る分配金として分配することとしました。この結果、投資口1口当たりの利益分配金及び一時差異等調整引当額に係る分配金は2,966円となりました。

これに加え、本投資法人は、規約に定める分配の方針に従い、資産の取得や新投資口の発行等の資金調達行為等に関連して、投資口の希薄化又は多額の費用が生じ、一時的に1口当たり分配金の金額が一定程度減少することが見込まれる場合において、1口当たり分配金の金額を平準化することを目的とする場合に限り、本投資法人が決定した金額を、一時的な利益を超えた金銭の分配として、分配することができるものとしています。この結果、税法上の出資等減少分配に該当する出資の払戻しとして、投資口1口当たりのその他の利益超過分配金は119円としました。

以上の結果、当期の投資口1口当たりの分配金は3,085円となりました。

B 次期の見通し

i. 運用全般に関する見通し

物流不動産市場においては、2019年第4四半期の首都圏のマルチテナント型物流施設の空室率は過去最低（CBREマーケットビュー）となり、今後のプレリーシングも順調なことから、引き続き空室率は低水準で推移することが見込まれます。本投資法人の運用物件においても、安定した利用が継続して見込まれます。

一方、事業会社は、人手不足に対応したAI等の活用による自動化ニーズや、IT技術の進展に伴う技術変化への対応を求められており、設備投資に対する意欲は旺盛に見られます。このような環境下、事業会社においては、ROE重視の経営、コアビジネスへの集中や設備投資資金確保のための不動産売却ニーズは引き続き高く、本投資法人が得意とするCRE（Corporate Real Estate）提案型取得活動による投資機会は引き続き多く存在するものと考えております。

また、今後は、中国で発生した新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大に対して、国内外の経済ファンダメンタルズへの影響を注視していくとともに、不動産市場の動向や本投資法人の運用物件のテナントの業況等についても注視していく必要があると考えております。

ii. 今後の運用方針及び対処すべき課題

このような環境のもと、本投資法人は以下のような運用を行い、収益の安定的な確保と運用資産の着実な成長を図ることにより、投資主価値の継続的な拡大を目指します。

a) 外部成長

本投資法人は、大きな成長ポテンシャルを有するCRE（Corporate Real Estate）、PRE（Public Real Estate）の両分野において、本投資法人が強みを有する提案型取得活動の継続により、「収益力」と「投資主利益」向上に資する「安定」した資産の取得機会を引き続き追求し、更なる資産規模拡大を目指してまいります。

CRE、PREの両分野において、これまで蓄積した実績、ノウハウ、ネットワークに裏打ちされた先行者メリ

ットを活かし、競争を回避した有利な物件取得を進めるとともに、更なるアセットカテゴリーの開拓、更なるCREニーズの開拓を目指し、独自のCRE提案型ビジネスモデルを進化させてまいります。

本邦唯一の産業用不動産特化型REITとしての特異性を活かすとともに、スポンサー企業を含む独自の情報ルートを通じた物件情報収集、並びにブリッジストラクチャーの利用等による機動的な取得体制の構築を通じて、良質物件の積み上げによるポートフォリオの拡充に努めます。

b) 内部成長

本投資法人が保有するポートフォリオは2020年1月31日現在、運用物件数72件、取得価格合計300,567百万円となっております。

これらの資産は当期末現在、平均稼働率99.8%にて稼働し、また、平均賃貸借残存期間7.8年の長期にわたる賃貸借契約により、安定的なキャッシュ・フローを生み出しております。

本投資法人は、テナントに対し価値を提供することにより、長期安定した運用+ α としての内部成長を実現するため「3C Management Cycle」によるポートフォリオ運用を継続しております。「3C Management Cycle」とは、①Communicate：テナントとの密接なコミュニケーションによってニーズを的確に把握し、②Customize：個別のニーズに応じてカスタムメイドの提案を戦略的に実施することにより、③Create：ニーズの解決という価値を創造すると同時に、長期運用+ α という投資主価値を創造していく、というポートフォリオ運用の考え方です。その成果として、当期には、I I F 越谷ロジスティクスセンターにおいて、既存の定期建物賃貸借契約が2020年12月末終了することを見据えて、マーケット賃料を踏まえた上でテナントと協議を行い、賃料増額を実現した新たな定期建物賃貸借契約を締結することで2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）以降の収益向上を図りました。このように今後も「3C Management Cycle」の取り組みによるポートフォリオの安定性の維持及び更なる収益性の向上を目指し、建物の機能性・安全性・快適性の維持・向上に必要な管理の実践と必要に応じた適切な修繕の実施、並びに継続的かつ緊密なコミュニケーションを通じた賃借人との関係構築による賃料水準の維持・向上、解約の抑制に引き続き努めてまいります。

c) 財務戦略

本投資法人は、「長期賃貸借契約に裏付けられた長期安定的なキャッシュ・フロー」という本投資法人のポートフォリオの特性を勘案し、「長期固定化」を基本的な負債調達戦略に位置付けております。そのため、物件の長期安定的なキャッシュ・フローに長期固定借入を組み合わせるALM (Asset Liability Management) を推進してまいります。

また、既存借入の借換えを通じて、調達コストの低減、借入期間の長期化、返済額の平準化、返済期日の分散化を推進してまいります。加えて、調達基盤の拡充を目的として、調達先、調達手法の多様化にも引き続き取り組んでまいります。

iii. 次期の業績の見通し

2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）の運用状況につきましては、営業収益10,984百万円、経常利益5,259百万円、当期純利益5,257百万円、1口当たり分配金2,800円（利益超過分配金を含む）（うち1口当たり利益超過分配金4円）を見込んでいます。この見通しの前提条件につきましては、後記「2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）及び2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）運用状況の予想の前提条件」をご覧ください。

なお、2020年1月期（2019年8月1日～2020年1月31日）からの主な増減要因として、以下を見込んでいます。

（営業収益）（対前期比△64百万円）

- ・2019年8月1日付で譲渡した I I F 厚木ロジスティクスセンター（準共有持分50%）に係る不動産等売却益の剥落による減少
- ・2020年1月期（2019年8月1日～2020年1月31日）及び2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）に取得（予定）の5物件に係る賃貸事業収入の増加

（営業費用）（対前期比+263百万円）

- ・2020年1月期（2019年8月1日～2020年1月31日）及び2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）に取得（予定）の5物件に係る賃貸事業費用の増加
- ・2019年中に取得した7物件に係る公租公課負担の費用化

（参考）

2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）の運用状況につきましては、営業収益11,409百万円、経常利益5,551百万円、当期純利益5,549百万円、1口当たり分配金2,955円（利益超過分配金を含む）（うち1口当たり利益超過分配金4円）を見込んでいます。この見通しの前提条件につきましては、後記「2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）及び2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）運用状況の予想の前提条件」をご覧ください。

注. 上記予想数値は、一定の前提条件の下に算出した現時点でのものであり、状況の変化により実際の当期純利益、分配金は変動する可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。

2020年7月期（2020年2月1日～2020年7月31日）及び2021年1月期（2020年8月1日～2021年1月31日）運用状況の予想の前提条件

項目	前提条件								
計算期間	第26期 2020年2月1日～2020年7月31日（182日） 第27期 2020年8月1日～2021年1月31日（184日）								
保有資産	<p>本投資法人が、2020年1月31日現在保有している72物件^(注)の不動産及び不動産信託受益権に加え、以下の取得（予定）資産4物件の取得を前提としています。なお、全ての取得（予定）資産につき、売買契約を締結済みであり、取得（予定）時期は以下のとおりです。</p> <p>(注) 取得（予定）資産であるI I F厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）に係る底地であるI I F厚木マニュファクチュアリングセンター（底地）を含みます。なお、I I F厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）取得後の本投資法人のポートフォリオ全体の物件数の算出にあたっては、I I F厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）は、I I F厚木マニュファクチュアリングセンター（底地）と併せて1物件として算出する予定です。</p> <p><取得（予定）資産></p> <table border="1"> <tr> <td>I I F 横浜都筑R&Dセンター</td> <td>2020年3月2日取得済</td> </tr> <tr> <td>I I F 広島西風新都ロジスティクスセンター</td> <td>2020年4月30日取得予定</td> </tr> <tr> <td>I I F 厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）</td> <td>2020年6月1日取得予定</td> </tr> <tr> <td>I I F 岡崎マニュファクチュアリングセンター（底地）</td> <td>2020年7月15日取得予定</td> </tr> </table> <p>上記の取得（予定）資産4物件の取得後は、2021年1月末日までに物件の異動がないことを前提にしていますが、実際にはその他の物件取得又は処分等により変動する可能性があります。</p>	I I F 横浜都筑R&Dセンター	2020年3月2日取得済	I I F 広島西風新都ロジスティクスセンター	2020年4月30日取得予定	I I F 厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）	2020年6月1日取得予定	I I F 岡崎マニュファクチュアリングセンター（底地）	2020年7月15日取得予定
I I F 横浜都筑R&Dセンター	2020年3月2日取得済								
I I F 広島西風新都ロジスティクスセンター	2020年4月30日取得予定								
I I F 厚木マニュファクチュアリングセンター（建物）	2020年6月1日取得予定								
I I F 岡崎マニュファクチュアリングセンター（底地）	2020年7月15日取得予定								
有利子負債	<p>2020年1月31日現在の有利子負債総額は156,583百万円であり、内訳は長期借入金（1年内返済予定のものを含みます。）146,583百万円及び投資法人債10,000百万円となっています。</p> <p>上記「保有資産」に記載の取得（予定）資産の取得を目的として、2020年4月27日に長期借入金3,000百万円、2020年5月28日に長期借入金7,000百万円、2020年7月13日に長期借入金4,000百万円の新規借入れを行うことを前提としています。</p> <p>また、第26期中に返済期限が到来する有利子負債は長期借入金4,000百万円であり、これについては同額の長期借入金による借換えを予定しています。</p> <p>この結果、2020年7月末日及び2021年1月末日の有利子負債総額は170,583百万円となることを前提としています。</p>								
営業収益	<p>賃貸事業収益については、第26期及び第27期中の有効な賃貸借契約をもとに、市場環境、個別物件の特性、物件の競争力及び退去予定の有無等を含む個々のテナントの状況等を考慮して算出しています。また、第26期及び第27期ともに、上記「保有資産」に記載の前提を基に、賃借人による賃料の滞納又は不払いがないことを前提としています。</p>								
営業費用	<p>第26期の固定資産税、都市計画税及び償却資産税は約907百万円、修繕費は約103百万円、また第27期の固定資産税、都市計画税及び償却資産税は約943百万円、修繕費は約88百万円を見込んでいます。なお、不動産等の新規取得に伴い前所有者と所有する日数に応じて精算することとなる固定資産税及び都市計画税等については、取得原価に算入されるため費用として計上されず、翌年から費用計上されることとなります。したがって、上記「保有資産」に記載の取得（予定）資産に係る固定資産税、都市計画税及び償却資産税は第28期から費用計上されることとなります。なお、取得（予定）資産の取得原価に算入される固定資産税、都市計画税及び償却資産税相当額は約72百万円を想定しています。</p> <p>減価償却費は、付随費用等を含めて定額法により算出しており、第26期に約1,587百万円、第27期に約1,632百万円を想定しています。</p> <p>なお、外注委託費（プロパティ・マネジメント報酬、建物管理委託費等）につきましては、これまでの実績に基づき算出しています。</p>								
営業外費用	<p>上記「有利子負債」に係る前提に基づき、支払利息、融資関連費用、投資法人債利息及び投資法人債発行費償却として、第26期に約867百万円、第27期に約899百万円を見込んでいます。</p> <p>また、投資口の交付に係る費用の償却費としては、第26期に約62百万円、第27期に約62百万円を見込んでいます。</p>								
特別損益	第26期及び第27期において特別損益の発生は見込んでいません。								

発行済投資口の総口数	提出日現在の発行済投資口総数1,880,016口を前提としています。
1口当たり分配金 (利益超過分配金は含まない)	投資口1口当たりの分配金が1円未満となる端数部分を除く当期純利益の全額を分配することを前提としています。なお、第26期及び第27期において、金利スワップの時価の変動が1口当たり分配金に影響がない前提で算出しています。
1口当たり利益超過分配金 (うち一時差異等調整引当額)	2016年9月1日で取得したIIF加須ロジスティクスセンター、2016年12月22日で取得したIIF羽村ロジスティクスセンター及び2019年6月3日で取得したIIF市川フードプロセスセンターについて、アスベストの除去に係る資産除去債務を計上しており、また、2020年3月2日付で取得したIIF横浜都筑R&Dセンターについて、アスベストの除去に係る資産除去債務を計上する予定であり、当該資産除去債務に係る利息費用及び建物等に係る減価償却費に関する税会不一致に対して、一時差異等調整引当額の計上を見込んでいます。第26期及び第27期においてはそれぞれ1口当たり4円の利益超過分配(一時差異等調整引当額)を行うことを想定しています。
1口当たり利益超過分配金 (うち税法上の出資等 減少分配)	税法上の出資等減少分配については現時点において行う予定はありません。

なお、2020年7月期中において、取得(予定)の4物件の概要は下記のとおりです。

新規取得(予定)物件名	所在地 (注1)	種類	取得(予定) 価格 (百万円)	鑑定評価額 (百万円) (注2)
IIF横浜都筑R&Dセンター	神奈川県横浜市都筑区牛久保3丁目9番2号	工場・研究 開発施設等	5,900	6,350
IIF広島西風新都 ロジスティクスセンター	広島県広島市安佐南区伴南二丁目8005番4他	物流施設	6,208	6,870
IIF厚木マニュファクチュア リングセンター(建物)	神奈川県厚木市下古沢字紅葉山 832番地1他	工場・研究 開発施設等	6,960	6,990
IIF岡崎マニュファクチュア リングセンター(底地)	愛知県岡崎市牧平町字岡作34番6 他	工場・研究 開発施設等	3,930	4,190
新規取得(予定)物件合計			22,998	24,400

注1. 「所在地」は、住居表示を記載しております。ただし、住居表示が実施されていない物件については、登記簿上の土地地番(複数ある場合にはそのうちの一筆)を記載しております。

注2. 2020年1月31日を価格時点とする不動産鑑定評価書に記載の鑑定評価額を記載しています。なお、IIF広島西風新都ロジスティクスセンターについては、提出日現在建築中であり、価格等調査の時点における基本設計書どおりに竣工し、建物賃貸借契約が締結され、賃貸借が開始されることを前提としています。

注3. 当該4物件に係る売買契約においては、本投資法人が売買契約に定める合意事項に違反し又は不実の表明保証を行い、売買契約が解除された場合には、本投資法人は、売主に対し、売買代金総額(IIF横浜都筑R&Dセンター及びIIF厚木マニュファクチュアリングセンター(建物)に係る売買契約については建物消費税相当額を含みません。)の20%相当額を違約金として支払うものとされています。ただし、当該4物件に係る売買契約においては、本投資法人が売買代金の支払に必要な資金調達(融資、増資を含みますが、これに限られません。)を完了できたことを条件として売買代金の支払義務が発生するものとされています。

注4. 2020年7月期中に取得(予定)の4物件の詳細については、2019年11月29日付「国内不動産信託受益権の取得及び貸借に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) 投資リスク

最近の有価証券届出書(2019年11月29日提出)における「投資リスク」から重要な変更がないため開示を省略します。

2. 財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,464,901	23,778,269
信託現金及び信託預金	3,237,722	3,712,295
営業未収入金	305,008	288,546
前払費用	1,176,326	549,882
未収還付法人税等	-	404
未収消費税等	302,725	-
その他	2,847	1,034
流動資産合計	15,489,533	28,330,432
固定資産		
有形固定資産		
建物	33,965,870	34,181,870
減価償却累計額	△7,142,920	△7,543,324
建物(純額)	26,822,949	26,638,546
構築物	99,240	111,795
減価償却累計額	△31,780	△35,623
構築物(純額)	67,460	76,171
機械及び装置	11,892	11,892
減価償却累計額	△11,892	△11,892
機械及び装置(純額)	0	0
工具、器具及び備品	13,855	13,855
減価償却累計額	△7,553	△8,411
工具、器具及び備品(純額)	6,302	5,444
土地	21,334,206	21,337,362
信託建物	77,098,695	78,205,154
減価償却累計額	△12,403,130	△13,075,407
信託建物(純額)	64,695,565	65,129,746
信託構築物	633,359	778,524
減価償却累計額	△397,234	△400,152
信託構築物(純額)	236,125	378,371
信託機械及び装置	109,899	119,385
減価償却累計額	△26,184	△32,406
信託機械及び装置(純額)	83,715	86,979
信託工具、器具及び備品	41,139	41,854
減価償却累計額	△14,721	△17,571
信託工具、器具及び備品(純額)	26,418	24,282
信託土地	163,725,785	164,403,793
信託建設仮勘定	3,870	6,000
有形固定資産合計	277,002,400	278,086,698
無形固定資産		
借地権	※1 19,833,966	※1 19,833,966
その他	11,801	10,500
無形固定資産合計	19,845,767	19,844,466

(単位：千円)

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	101,517	101,517
差入敷金及び保証金	10,200	10,200
長期前払費用	1,417,772	1,292,619
その他	3,000	3,000
投資その他の資産合計	1,532,489	1,407,336
固定資産合計	298,380,658	299,338,501
繰延資産		
投資口交付費	178,190	245,979
投資法人債発行費	38,977	35,170
繰延資産合計	217,168	281,150
資産合計	314,087,359	327,950,083
負債の部		
流動負債		
営業未払金	741,552	657,965
1年内返済予定の長期借入金	5,626,000	4,000,000
未払金	617,930	690,245
未払費用	133,953	127,019
未払法人税等	1,583	617
未払消費税等	-	491,424
前受金	2,179,079	1,782,628
その他	71,436	218,676
流動負債合計	9,371,536	7,968,576
固定負債		
投資法人債	10,000,000	10,000,000
長期借入金	140,957,000	142,583,000
預り敷金及び保証金	2,489,625	2,468,668
信託預り敷金及び保証金	8,887,835	8,890,773
資産除去債務	317,347	318,248
デリバティブ債務	189,116	160,446
その他	1,743	1,170
固定負債合計	162,842,668	164,422,307
負債合計	172,214,204	172,390,884

(単位：千円)

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
純資産の部		
投資主資本		
出資総額	136,894,435	150,235,013
出資総額控除額		
一時差異等調整引当額	※3 △222,603	※3 △214,318
その他の出資総額控除額	-	△69,966
出資総額控除額合計	△222,603	△284,285
出資総額(純額)	136,671,831	149,950,728
剰余金		
当期未処分利益又は当期未処理損失(△)	5,404,485	5,775,696
剰余金合計	5,404,485	5,775,696
投資主資本合計	142,076,317	155,726,424
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△203,162	△167,225
評価・換算差額等合計	△203,162	△167,225
純資産合計	※2 141,873,154	※2 155,559,199
負債純資産合計	314,087,359	327,950,083

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
営業収益		
貸貸事業収入	※1 10,131,622	※1 10,562,057
不動産等売却益	※2 470,143	※2 485,200
匿名組合分配金	1,018	2,070
営業収益合計	10,602,784	11,049,327
営業費用		
貸貸事業費用	※1 3,327,871	※1 3,392,607
資産運用報酬	898,922	971,774
役員報酬	7,440	7,440
資産保管手数料	6,664	7,098
一般事務委託手数料	33,002	36,387
その他営業費用	110,092	114,528
営業費用合計	4,383,992	4,529,836
営業利益	6,218,792	6,519,490
営業外収益		
受取利息	68	72
還付加算金	-	1,568
未払分配金戻入	478	224
営業外収益合計	546	1,865
営業外費用		
支払利息	619,141	627,049
投資法人債利息	49,626	50,173
投資法人債発行費償却	3,807	3,807
融資関連費用	240,569	188,110
投資口交付費償却	62,679	76,444
その他	51,233	3,745
営業外費用合計	1,027,059	949,330
経常利益	5,192,279	5,572,025
税引前当期純利益	5,192,279	5,572,025
法人税、住民税及び事業税	1,801	646
法人税等合計	1,801	646
当期純利益	5,190,477	5,571,378
前期繰越利益	214,007	204,317
当期未処分利益又は当期未処理損失(△)	5,404,485	5,775,696

(3) 投資主資本等変動計算書

前期(自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

(単位:千円)

	投資主資本						
	出資総額				剰余金		投資主資本合計
	出資総額	出資総額控除額		出資総額 (純額)	当期末処分利益 又は当期末処理 損失(△)	剰余金合計	
一時差異等 調整引当額		出資総額 控除額合計					
当期首残高	125,376,568	△225,597	△225,597	125,150,971	4,842,876	4,842,876	129,993,847
当期変動額							
新投資口の発行	11,517,867			11,517,867			11,517,867
剰余金の配当					△4,624,177	△4,624,177	△4,624,177
一時差異等調整引当 額の戻入		4,692	4,692	4,692	△4,692	△4,692	-
一時差異等調整 引当額による 利益超過分配		△1,698	△1,698	△1,698			△1,698
当期純利益					5,190,477	5,190,477	5,190,477
投資主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	11,517,867	2,993	2,993	11,520,860	561,608	561,608	12,082,469
当期末残高	※1 136,894,435	△222,603	△222,603	136,671,831	5,404,485	5,404,485	142,076,317

	評価・換算差額等		純資産合計
	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△213,241	△213,241	129,780,606
当期変動額			
新投資口の発行			11,517,867
剰余金の配当			△4,624,177
一時差異等調整引当 額の戻入			-
一時差異等調整 引当額による 利益超過分配			△1,698
当期純利益			5,190,477
投資主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	10,079	10,079	10,079
当期変動額合計	10,079	10,079	12,092,548
当期末残高	△203,162	△203,162	141,873,154

当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）

(単位：千円)

	投資主資本						
	出資総額					剰余金	
	出資総額	出資総額控除額			出資総額 (純額)	当期末処分利益 又は当期末処理 損失(△)	剰余金合計
		一時差異等 調整引当額	その他の 出資総額控除額	出資総額 控除額合計			
当期首残高	136,894,435	△222,603	—	△222,603	136,671,831	5,404,485	5,404,485
当期変動額							
新投資口の発行	13,340,578				13,340,578		
剰余金の配当						△5,190,088	△5,190,088
一時差異等調整引当 額の戻入		10,079		10,079	10,079	△10,079	△10,079
一時差異等調整 引当額による 利益超過分配		△1,794		△1,794	△1,794		
その他の利益超過分 配			△69,966	△69,966	△69,966		
当期純利益						5,571,378	5,571,378
投資主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	13,340,578	8,285	△69,966	△61,681	13,278,896	371,211	371,211
当期末残高	※1 150,235,013	△214,318	△69,966	△284,285	149,950,728	5,775,696	5,775,696

	投資主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	投資主資本合計	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	142,076,317	△203,162	△203,162	141,873,154
当期変動額				
新投資口の発行	13,340,578			13,340,578
剰余金の配当	△5,190,088			△5,190,088
一時差異等調整引当 額の戻入	—			—
一時差異等調整 引当額による 利益超過分配	△1,794			△1,794
その他の利益超過分 配	△69,966			△69,966
当期純利益	5,571,378			5,571,378
投資主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)		35,936	35,936	35,936
当期変動額合計	13,650,107	35,936	35,936	13,686,044
当期末残高	155,726,424	△167,225	△167,225	155,559,199

(4) 金銭の分配に係る計算書

(単位:円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
I 当期末処分利益	5,404,485,102	5,775,696,588
II 利益超過分配金加算額	71,760,640	227,481,936
うち一時差異等調整引当額	1,794,016	3,760,032
うちその他の出資総額控除額	69,966,624	223,721,904
III 出資総額組入額	10,079,112	35,936,870
うち一時差異等調整引当額戻入額	10,079,112	35,936,870
IV 分配金の額	5,261,848,928	5,799,849,360
(投資口1口当たり分配金の額)	(2,933)	(3,085)
うち利益分配金	5,190,088,288	5,572,367,424
(うち1口当たり利益分配金)	(2,893)	(2,964)
うち一時差異等調整引当額	1,794,016	3,760,032
(うち1口当たり利益超過分配金 (一時差異等調整引当額に係るもの))	(1)	(2)
うちその他の利益超過分配金 (うち1口当たりの利益超過分配金 (その他の利益超過分配金に係るもの))	69,966,624 (39)	223,721,904 (119)
V 次期繰越利益	204,317,702	167,392,294
分配金の額の算出方法	<p>本投資法人の規約第25条第1項第2号に定める分配方針に基づき、租税特別措置法第67条の15第1項に規定される本投資法人の配当可能利益の額の100分の90に相当する金額を超えて分配することとしております。</p> <p>かかる方針に従い、利益分配金(利益超過分配金は含みません。)については、投資口1口当たりの利益分配金が1円未満となる端数部分を除き、投資信託及び投資法人に関する法律第136条第1項に定める利益から一時差異等調整引当額(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号に定めるものをいいます。)の戻入れ額を控除した額の全額である5,190,088,288円を分配することとしました。</p> <p>また、本投資法人の規約第25条第2項に定める利益を超えた金銭の分配の方針に基づき、所得超過税会不一致(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号イに定めるものをいいます。)及び純資産控除項目(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号ロに定めるものをいいます。)が分配金に与える影響を考慮して、本投資法人が決定する金額による利益超過分配(以下「利益超過分配」といいます。)を行うこととし、当期については、所得超過税会不一致に相当する額として、投資口1口当たりの利益超過分配金が1円未満となる端数部分を除き算定される1,794,016円を、一時差異等調整引当額に係る分配金として分配することとしました。また、分配金を平準化するための出資の払戻しとして69,966,624円を分配することとしました。以上の結果、当期の分配金の額は5,261,848,928円としております。</p>	<p>本投資法人の規約第25条第1項第2号に定める分配方針に基づき、租税特別措置法第67条の15第1項に規定される本投資法人の配当可能利益の額の100分の90に相当する金額を超えて分配することとしております。</p> <p>かかる方針に従い、利益分配金(利益超過分配金は含みません。)については、投資口1口当たりの利益分配金が1円未満となる端数部分を除き、投資信託及び投資法人に関する法律第136条第1項に定める利益から一時差異等調整引当額(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号に定めるものをいいます。)の戻入れ額を控除した額の全額である5,572,367,424円を分配することとしました。</p> <p>また、本投資法人の規約第25条第2項に定める利益を超えた金銭の分配の方針に基づき、所得超過税会不一致(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号イに定めるものをいいます。)及び純資産控除項目(投資法人の計算に関する規則第2条第2項第30号ロに定めるものをいいます。)が分配金に与える影響を考慮して、本投資法人が決定する金額による利益超過分配(以下「利益超過分配」といいます。)を行うこととし、当期については、所得超過税会不一致に相当する額として、投資口1口当たりの利益超過分配金が1円未満となる端数部分を除き算定される3,760,032円を、一時差異等調整引当額に係る分配金として分配することとしました。また、分配金を平準化するための出資の払戻しとして223,721,904円を分配することとしました。以上の結果、当期の分配金の額は5,799,849,360円としております。</p>

(5) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	5,192,279	5,572,025
減価償却費	1,404,025	1,471,231
投資法人債発行費償却	3,807	3,807
投資口交付費償却	62,679	76,444
受取利息	△68	△72
支払利息	668,768	677,222
営業未収入金の増減額 (△は増加)	△38,459	16,462
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△302,725	302,725
前払費用の増減額 (△は増加)	△659,495	626,444
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△43,427	125,152
営業未払金の増減額 (△は減少)	27,124	△51,319
未払金の増減額 (△は減少)	33,903	32,561
未払費用の増減額 (△は減少)	△219	1,032
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△494,160	491,424
前受金の増減額 (△は減少)	569,874	△396,451
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	1,615	△572
信託有形固定資産の売却による減少額	759,989	747,219
その他	△150,253	106,386
小計	7,035,258	9,801,724
利息の受取額	68	72
利息の支払額	△670,744	△685,189
法人税等の支払額	△1,526	△2,017
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,363,056	9,114,590
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△477,718	△210,042
信託有形固定資産の取得による支出	△25,877,008	△3,150,195
預り敷金及び保証金の受入による収入	—	74,133
預り敷金及び保証金の返還による支出	—	△90
信託預り敷金及び保証金の受入による収入	765,434	84,342
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	△115,838	△126,404
投資有価証券の取得による支出	△101,517	—
その他	△5,902	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,812,550	△3,328,257
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	20,057,000	1,626,000
長期借入金の返済による支出	△8,274,000	△1,626,000
投資口の発行による収入	11,449,218	13,340,578
投資口交付費の支出	—	△78,964
分配金の支払額	△4,625,845	△5,260,005
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,606,372	8,001,607
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△843,121	13,787,940
現金及び現金同等物の期首残高	14,545,745	13,702,624
現金及び現金同等物の期末残高	※1 13,702,624	※1 27,490,564

(6) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(7) 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価方法及び処理方法	<p>有価証券 その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。 匿名組合出資持分については、匿名組合の損益の純額に対する持分相当額を取り込む方法を採用しております。</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>① 有形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主たる有形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。 建物・信託建物 13～70年 構築物・信託構築物 2～45年 機械及び装置・信託機械及び装置 3～10年 工具、器具及び備品・信託工具、器具及び備品 6～15年</p> <p>② 無形固定資産 定額法を採用しております。</p> <p>③ 長期前払費用 定額法を採用しております。</p>
3. 繰延資産の処理方法	<p>① 投資口交付費 3年間で均等償却として処理しております。</p> <p>② 投資法人債発行費 投資法人債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。</p>
4. 収益及び費用の計上基準	<p>固定資産税等の処理方法 保有する不動産等にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当該決算期間に対応する額を貸貸事業費用として費用処理する方法を採用しております。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、本投資法人が負担すべき初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しております。 前期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は73,202千円、当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は108千円です。</p>
5. ヘッジ会計の方法	<p>① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 ただし、金利スワップの特例処理の要件を満たしているものにつきましては、特例処理を採用しております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ取引 ヘッジ対象 借入金金利</p> <p>③ ヘッジ方針 本投資法人は、リスク管理の基本方針を定めた規程に基づき、投資法人規約に規定するリスクをヘッジする目的で金利スワップ取引を行っております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額の比率を検証することにより、ヘッジの有効性を評価しております。 ただし、金利スワップの特例処理の要件を満たしているものにつきましては、有効性の評価を省略しております。</p>
6. キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）の範囲	<p>手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>① 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方法 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権につきましては、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しております。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記することとしております。</p> <p>(1) 信託現金及び信託預金 (2) 信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地、信託建設仮勘定 (3) 信託預り敷金及び保証金</p> <p>② 消費税等の処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>
----------------------------	---

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

※1. 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しておりIFRS第15号は2018年1月1日以降開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまでわが国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされています。

※2. 適用予定日

2022年1月期の期首から適用します。

※3. 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中です。

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日企業会計基準委員会)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日企業会計基準委員会)

※1. 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、公正価値測定について詳細なガイダンス (IASBにおいてはIFRS第13号「公正価値測定」、FASBにおいてはTopic820「公正価値測定」) を定めており、これらの国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して検討を重ね、時価の算定に関する会計基準及び時価の算定に関する会計基準の適用指針が公表されたものです。

※2. 適用予定日

2022年1月期の期首から適用します。

※3. 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中です。

(8) 財務諸表に関する注記事項

〔貸借対照表に関する注記〕

※1. IIF 羽田空港メンテナンスセンターの土地に係る国有財産法第18条第6項及び第19条に規定する使用許可に基づく権利であります。

※2. 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額

前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
50,000千円	50,000千円

※3. 一時差異等調整引当額

前期 (2019年7月31日)

1. 引当て、戻入れの発生事由、発生した資産等及び引当額

(単位：千円)

発生した資産等	引当ての発生事由	当初発生額	当期首残高	当期引当額	当期戻入額	当期末残高	戻入れの発生事由
信託建物	減価償却超過額等の発生	9,618	7,919	1,698	—	9,618	—
繰延ヘッジ損益	金利スワップ評価損の発生	405,448	217,677	—	△4,692	212,985	デリバティブ取引の時価の変動
合計		415,067	225,597	1,698	△4,692	222,603	

2. 戻入れの具体的な方法

(1) 信託建物

資産除去等の時点において、対応すべき金額を戻入れる予定です。

(2) 繰延ヘッジ損益

ヘッジ手段であるデリバティブ取引の時価の変動に応じて戻入れる予定です。

当期 (2020年1月31日)

1. 引当て、戻入れの発生事由、発生した資産等及び引当額

(単位：千円)

発生した資産等	引当ての発生事由	当初発生額	当期首残高	当期引当額	当期戻入額	当期末残高	戻入れの発生事由
信託建物	減価償却超過額等の発生	11,412	9,618	1,794	—	11,412	—
繰延ヘッジ損益	金利スワップ評価損の発生	405,448	212,985	—	△10,079	202,906	デリバティブ取引の時価の変動
合計		416,861	222,603	1,794	△10,079	214,318	

2. 戻入れの具体的な方法

(1) 信託建物

資産除去等の時点において、対応すべき金額を戻入れる予定です。

(2) 繰延ヘッジ損益

ヘッジ手段であるデリバティブ取引の時価の変動に応じて戻入れる予定です。

〔損益計算書に関する注記〕

※1. 不動産賃貸事業損益の内訳

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
A. 不動産賃貸事業収益		
賃貸事業収入		
賃料収入	9,661,314	10,136,532
受取水道光熱費	303,887	294,492
その他賃貸収入	166,420	131,032
不動産賃貸事業収益合計	10,131,622	10,562,057
B. 不動産賃貸事業費用		
賃貸事業費用		
プロパティ・マネジメント報酬	78,791	81,385
建物管理委託費	164,699	146,105
水道光熱費	306,223	287,754
公租公課	835,047	870,136
損害保険料	21,521	22,895
修繕費	97,061	87,391
減価償却費	1,404,025	1,471,231
信託報酬	17,624	18,803
借地料	400,340	404,767
その他諸経費	2,534	2,134
不動産賃貸事業費用合計	3,327,871	3,392,607
C. 不動産賃貸事業損益 (A-B)	6,803,751	7,169,449

※2. 不動産等売却益の内訳

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
不動産等売却収入	1,280,000	1,280,000
不動産等売却原価	759,989	747,219
その他売却費用	49,867	47,580
不動産等売却益	470,143	485,200

〔投資主資本等変動計算書に関する注記〕

※1. 発行可能投資口総口数及び発行済投資口の総口数

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
発行可能投資口総口数	32,000,000口	32,000,000口
発行済投資口の総口数	1,794,016口	1,880,016口

〔キャッシュ・フロー計算書に関する注記〕

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
現金及び預金	10,464,901千円	23,778,269千円
信託現金及び信託預金	3,237,722千円	3,712,295千円
現金及び現金同等物	13,702,624千円	27,490,564千円

〔リース取引に関する注記〕

オペレーティング・リース取引（貸主側）

未経過リース料

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
1年以内	17,422,158千円	17,961,264千円
1年超	70,775,878千円	72,179,701千円
合計	88,198,036千円	90,140,966千円

〔金融商品に関する注記〕

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、資産の取得、修繕又は債務の返済等に当たっては、借入、投資法人債の発行及び投資口の発行等による資金調達を行います。

余資の運用については、安全性、換金性等を考慮し、金融環境及び資金繰りを十分に勘案した上で、慎重に行っております。

デリバティブ取引については、金利変動等のリスクをヘッジすることを目的としてのみ行うこととしており、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入金及び投資法人債の資金使途は、主に不動産及び不動産を信託財産とする信託受益権の取得、既存の借入金及び投資法人債のリファイナンスです。

預り敷金及び保証金は、賃貸借契約に係るテナントからの預り金です。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、本投資法人では、資産運用会社が金利動向をモニタリングし、定期的に業績への影響度の計測を行うこと等により金利の変動リスクを管理しております。さらに、変動金利の借入金のうち一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るためにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。

ヘッジの有効性の評価方法については、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額の比率を検証することにより、ヘッジの有効性を評価しております。ただし、金利スワップの特例処理の要件を満たしているものについては、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、リスク管理の基本方針を定めた規程に基づき行っております。

また、借入金、投資法人債、預り敷金及び保証金は、流動性リスクに晒されていますが、本投資法人では、資産運用会社が月次で資金繰計画を作成すること、手許流動性を維持すること、機動的な資金調達を目的とした極度貸付枠設定契約を締結していること等により流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。また、後記「デリバティブ取引に関する注記」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2.参照）。

前期 (2019年7月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	10,464,901	10,464,901	—
(2)信託現金及び信託預金	3,237,722	3,237,722	—
資産計	13,702,624	13,702,624	—
(1)1年内返済予定の長期借入金	5,626,000	5,655,159	29,159
(2)投資法人債	10,000,000	10,251,750	251,750
(3)長期借入金	140,957,000	145,701,046	4,744,046
(4)信託預り敷金及び保証金	497,000	495,305	△ 1,694
負債計	157,080,000	162,103,261	5,023,261
デリバティブ取引 (※)	(203,162)	(203,162)	—

当期 (2020年1月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	23,778,269	23,778,269	—
(2)信託現金及び信託預金	3,712,295	3,712,295	—
資産計	27,490,564	27,490,564	—
(1)1年内返済予定の長期借入金	4,000,000	4,008,700	8,700
(2)投資法人債	10,000,000	10,168,380	168,380
(3)長期借入金	142,583,000	148,274,959	5,691,959
(4)信託預り敷金及び保証金	489,500	492,557	3,057
負債計	157,072,500	162,944,597	5,872,097
デリバティブ取引 (※)	(167,225)	(167,225)	—

(※) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

注1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、(2)信託現金及び信託預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1)1年内返済予定の長期借入金、(3)長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、金利が一定期間ごとに更改される条件となっているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております(ただし、金利スワップの特例処理の対象とされた変動金利による長期借入金(後記「デリバティブ取引に関する注記」参照)は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、残存期間に対応した同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。)。また、固定金利によるもの時価については、元利金の合計額を残存期間に対応した同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(2)投資法人債

投資法人債の時価については、金融データ提供会社による公表参考値によっております。

(4)信託預り敷金及び保証金

これらの時価については、その将来キャッシュ・フローを、返還期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

後記「デリバティブ取引に関する注記」をご参照下さい。

注2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
投資有価証券	101,517	101,517
資産計	101,517	101,517
預り敷金及び保証金	2,489,625	2,468,668
信託預り敷金及び保証金	8,390,835	8,401,273
負債計	10,880,460	10,869,941

投資有価証券（匿名組合出資持分）については、市場価格がなく、かつ、合理的に将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしておりません。

また、預り敷金及び保証金、信託預り敷金及び保証金のうち上記貸借対照表計上額については、市場価格がなく、かつ、返還予定時期等を想定することが困難であることから、合理的に将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしておりません。

注3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前期（2019年7月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金及び預金	10,464,901	—	—	—	—	—
信託現金及び信託預金	3,237,722	—	—	—	—	—
合計	13,702,624	—	—	—	—	—

当期（2020年1月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金及び預金	23,778,269	—	—	—	—	—
信託現金及び信託預金	3,712,295	—	—	—	—	—
合計	27,490,564	—	—	—	—	—

注4. 投資法人債、長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

前期（2019年7月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
投資法人債	—	—	—	5,000,000	2,000,000	3,000,000
長期借入金	5,626,000	—	12,600,000	13,500,000	17,000,000	97,857,000
合計	5,626,000	—	12,600,000	18,500,000	19,000,000	100,857,000

当期（2020年1月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
投資法人債	—	—	5,000,000	—	2,000,000	3,000,000
長期借入金	4,000,000	5,600,000	12,000,000	18,500,000	15,300,000	91,183,000
合計	4,000,000	5,600,000	17,000,000	18,500,000	17,300,000	94,183,000

〔デリバティブ取引に関する注記〕

1. ヘッジ会計が適用されていないもの

前期（2019年7月31日）及び当期（2020年1月31日）において、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。

前期（2019年7月31日）

（単位：千円）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
原則的処理方法	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	6,300,000	4,800,000	△203,162	取引先金融機関から提示された価格等によっております。
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	31,926,000	28,800,000	(注)	—

当期（2020年1月31日）

（単位：千円）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
原則的処理方法	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	6,300,000	4,800,000	△167,225	取引先金融機関から提示された価格等によっております。
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	30,300,000	28,800,000	(注)	—

注. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております（前記「金融商品に関する注記 2. 金融商品の時価等に関する事項 注1 負債(1)、(3)」参照）。

〔税効果会計に関する注記〕

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税損金不算入額	68千円	2千円
資産除去債務	99,837千円	100,120千円
繰延ヘッジ損益	63,914千円	52,609千円
繰延税金資産小計	163,820千円	152,731千円
評価性引当額	△ 163,820千円	△ 152,731千円
繰延税金資産合計	－千円	－千円
繰延税金資産の純額	－千円	－千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前期 (2019年7月31日)	当期 (2020年1月31日)
法定実効税率	31.51%	31.51%
(調整)		
支払分配金の損金算入額	△ 31.51%	△ 31.53%
その他	0.03%	0.03%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.03%	0.01%

〔関連当事者との取引に関する注記〕

1. 親会社及び法人主要投資主等

前期（自 2019年2月1日 至 2019年7月31日）及び当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）において、該当事項はありません。

2. 関連会社等

前期（自 2019年2月1日 至 2019年7月31日）及び当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）において、該当事項はありません。

3. 兄弟会社等

前期（自 2019年2月1日 至 2019年7月31日）及び当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）において、該当事項はありません。

4. 役員及び個人主要投資主等

前期（自 2019年2月1日 至 2019年7月31日）及び当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）において、該当事項はありません。

〔資産除去債務に関する注記〕

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

本投資法人は、2016年9月1日付で取得した「IIF加須ロジスティクスセンター」、2016年12月22日付で取得した「IIF羽村ロジスティクスセンター」及び2019年6月3日付で取得した「IIF市川フードプロセスセンター」のアスベスト除去に係る法令上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を建物の耐用年数によりそれぞれ53年、33年、50年と見積り、割引率はそれぞれ0.500%、0.689%、0.550%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
期首残高	173,932	317,347
有形固定資産の取得に伴う増加額	142,793	—
時の経過による調整額	621	900
期末残高	317,347	318,248

2. 貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

本投資法人は、IIF羽田空港メンテナンスセンターを、その敷地について東京航空局長による国有財産法に基づく使用許可を得た上で所有しているため、当該使用許可の更新が受けられない場合又は当該使用許可が取り消された場合に敷地上の建物を撤去することの原状回復に係る債務を負担しております。しかし、国有財産法に基づく使用許可の更新及び取消に関するこれまでの運用や当該施設の公共性等に鑑み、本投資法人は、当該使用許可については、特段の事情がない限り、当該施設を本投資法人が自発的に撤去するまで継続するものと見積もっております。前期末及び当期末現在において、本投資法人は当該施設の撤去を計画していないため、資産除去債務の履行時期を予測することができず、資産除去債務の金額を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

〔賃貸等不動産に関する注記〕

本投資法人では、三大都市圏を中心に、賃貸収益を得ることを目的として、物流施設及び工場・研究開発施設等並びにインフラ施設を有しております。これら賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、以下のとおりです。

(単位：千円)

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
貸借対照表計上額		
期首残高	272,297,598	296,837,079
期中増減額	24,539,481	1,084,259
期末残高	296,837,079	297,921,339
期末時価	352,419,000	356,001,000

注1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

注2. 賃貸等不動産の期中増減額のうち、前期の主な増加額はIIF兵庫たつのロジスティクスセンター（4,150,615千円）、IIF昭島ロジスティクスセンター（8,369,459千円）、IIF新川崎R&Dセンター（6,630,851千円）、IIF市川フードプロセスセンター（6,422,213千円）、IIF岐阜各務原マニュファクチュアリングセンター（底地）（249,574千円）の取得によるものであり、前期の主な減少額は減価償却費の計上及びIIF厚木ロジスティクスセンター（準共有持分50%）（759,989千円）の売却によるものです。当期の主な増加額はIIF岐阜各務原ロジスティクスセンター（2,508,223千円）の取得によるものであり、当期の主な減少額は減価償却費の計上及びIIF厚木ロジスティクスセンター（準共有持分50%）（747,219千円）の売却によるものです。

注3. 期末の時価は、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額又は調査評価額を記載しております。

なお、賃貸等不動産に関する損益は、「損益計算書に関する注記」に記載のとおりです。

[セグメント情報等に関する注記]

[セグメント情報]

本投資法人は、不動産賃貸事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

前期（自 2019年2月1日 至 2019年7月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連する セグメント名
日本航空株式会社	1,437,823	不動産賃貸事業

当期（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連する セグメント名
日本航空株式会社	1,442,163	不動産賃貸事業

〔1口当たり情報に関する注記〕

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
1口当たり純資産額	79,081円	82,743円
1口当たり当期純利益	2,997円	3,070円

注1. 1口当たり当期純利益は、当期純利益を日数加重平均投資口数で除することにより算定しております。なお、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため記載しておりません。

注2. 1口当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
当期純利益 (千円)	5,190,477	5,571,378
普通投資主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通投資口に係る当期純利益 (千円)	5,190,477	5,571,378
期中平均投資口数 (口)	1,731,806	1,814,729

〔重要な後発事象に関する注記〕

該当事項はありません。

〔一時差異等調整引当額の引当て及び戻入れに関する注記〕

前期 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

1. 引当ての発生事由、発生した資産等及び引当額

(単位：千円)

発生した資産等	引当ての発生事由	一時差異等調整引当額
信託建物	減価償却超過額等の発生	1,794

2. 戻入れの発生事由、発生した資産等及び戻入額

(単位：千円)

発生した資産等	戻入れの発生事由	一時差異等調整引当額戻入額
繰延ヘッジ損益	デリバティブ取引の時価の変動	10,079

3. 戻入れの具体的な方法

(1) 信託建物

資産除去等の時点において、対応すべき金額を戻入れる予定です。

(2) 繰延ヘッジ損益

ヘッジ手段であるデリバティブ取引の時価の変動に応じて戻入れる予定です。

当期 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)

1. 引当ての発生事由、発生した資産等及び引当額

(単位：千円)

発生した資産等	引当ての発生事由	一時差異等調整引当額
信託建物	減価償却超過額等の発生	3,760

2. 戻入れの発生事由、発生した資産等及び戻入額

(単位：千円)

発生した資産等	戻入れの発生事由	一時差異等調整引当額戻入額
繰延ヘッジ損益	デリバティブ取引の時価の変動	35,936

3. 戻入れの具体的な方法

(1) 信託建物

資産除去等の時点において、対応すべき金額を戻入れる予定です。

(2) 繰延ヘッジ損益

ヘッジ手段であるデリバティブ取引の時価の変動に応じて戻入れる予定です。

〔開示の省略〕

有価証券、退職給付に関する注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略します。

(9) 発行済投資口の総口数の増減

最近5年間における出資総額及び発行済投資口の総口数の増減は、以下のとおりです。

年月日	摘要	発行済投資口の総口数 (口)		出資総額(百万円) (注1)		備考
		増減	総数	増減	総額	
2015年 3月16日	公募増資	20,988	352,052	11,059	90,553	(注2)
2015年 3月27日	第三者割当増資	512	352,564	269	90,823	(注3)
2017年 2月14日	公募増資	43,538	396,102	21,308	112,131	(注4)
2017年 3月 3日	第三者割当増資	1,062	397,164	519	112,651	(注5)
2018年 2月 1日	投資口分割	1,191,492	1,588,656	—	112,651	(注6)
2018年 3月 7日	公募増資	109,275	1,697,931	12,623	125,274	(注7)
2018年 4月 4日	第三者割当増資	885	1,698,816	102	125,376	(注8)
2019年 5月29日	公募増資	90,700	1,789,516	10,973	136,349	(注9)
2019年 6月25日	第三者割当増資	4,500	1,794,016	544	136,894	(注10)
2019年12月18日	公募増資	83,900	1,877,916	13,014	149,909	(注11)
2020年 1月15日	第三者割当増資	2,100	1,880,016	325	150,235	(注12)

(注1) 一時差異等調整引当額に係る利益超過分配の実施に伴う出資総額控除額は考慮していません。

(注2) 1口当たり発行価格546,000円(引受価額526,960円)にて、公募により新投資口を発行しました。

(注3) 1口当たり発行価額526,960円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

(注4) 1口当たり発行価格506,025円(引受価額489,417円)にて、公募により新投資口を発行しました。

(注5) 1口当たり発行価額489,417円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

(注6) 2018年1月31日を基準日として、同日の最終の投資主名簿に記載又は記録された投資主の所有する本投資法人の投資口を、1口につき4口の割合をもって分割しました。

(注7) 1口当たり発行価格119,437円(引受価額115,517円)にて、公募により新投資口を発行しました。

(注8) 1口当たり発行価額115,517円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

(注9) 1口当たり発行価格125,092円(引受価額120,986円)にて、公募により新投資口を発行しました。

(注10) 1口当たり発行価額120,986円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

(注11) 1口当たり発行価格160,387円(引受価額155,123円)にて、公募により新投資口を発行しました。

(注12) 1口当たり発行価額155,123円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

3. 参考情報

(1) 本投資法人の資産の構成

資産の種類	アセット カテゴリー	立地 カテゴリー (注1)	地域	前期 (2019年7月31日)		当期 (2020年1月31日)	
				保有総額 (百万円) (注2)	対総資産 比率 (%) (注3)	保有総額 (百万円) (注2)	対総資産 比率 (%) (注3)
不動産	物流施設及び工場 ・研究開発施設等 (インダストリアル 不動産)	都市近郊型 又は 工業集積地型	東京及び 東京周辺都市部	12,956	4.1	12,951	4.0
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	4,832	1.5	4,850	1.5
			その他	4,081	1.3	4,080	1.2
		独立立地型	東京及び 東京周辺都市部	—	—	—	—
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	—	—	—	—
			その他	—	—	—	—
	インフラ施設 (インフラ不動産)	都市近郊型 又は 工業集積地型	東京及び 東京周辺都市部	44,195	14.1	44,011	13.4
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	1,998	0.6	1,998	0.6
			その他	—	—	—	—
		独立立地型	東京及び 東京周辺都市部	—	—	—	—
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	—	—	—	—
			その他	—	—	—	—
不動産 信託 受益権	物流施設及び工場 ・研究開発施設等 (インダストリアル 不動産)	都市近郊型 又は 工業集積地型	東京及び 東京周辺都市部	112,371	35.8	111,501	34.0
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	46,510	14.8	48,922	14.9
			その他	26,390	8.4	26,351	8.0
		独立立地型	東京及び 東京周辺都市部	—	—	—	—
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	—	—	—	—
			その他	7,703	2.5	7,673	2.3
	インフラ施設 (インフラ不動産)	都市近郊型 又は 工業集積地型	東京及び 東京周辺都市部	13,013	4.1	12,953	4.0
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	22,782	7.3	22,626	6.9
			その他	—	—	—	—
		独立立地型	東京及び 東京周辺都市部	—	—	—	—
			大阪・名古屋及び 同地域周辺都市部	—	—	—	—
			その他	—	—	—	—
小 計				296,837	94.5	297,921	90.8
匿名組合出資持分(注4)				101	0.0	101	0.0
預金・その他の資産				17,148	5.5	29,927	9.2
資産総額				314,087	100.0	327,950	100.0
負債総額				172,214	54.8	172,390	52.6
純資産総額				141,873	45.2	155,559	47.4

注1. 立地カテゴリーについては、後記<立地カテゴリー>をご参照下さい。

注2. 保有総額は期末時点の貸借対照表計上額（不動産及び不動産信託受益権については、減価償却後の帳簿価額）によっております。

注3. 小数点第二位を四捨五入しています。

注4. 合同会社インダストリアル・アセット・ホールディングス6号を営業者とする匿名組合に係る匿名組合出資持分です。なお、運用対象資産は、不動産「OTAテクノCORE」を信託する信託受益権です。

＜立地カテゴリー＞

立地カテゴリー	概要
都市近郊型	三大都市圏（注1）並びに政令指定都市及びそれに準ずる主要都市に立地する物件
工業集積地型	原則として製造品出荷額が1兆円以上の工業地区（注2）に立地する物件
独立立地型	都市近郊型、工業集積地型には該当しないが、リスクに見合ったリターンが十分に期待できると考えられる物件

注1. 三大都市圏とは、東京圏、大阪圏及び名古屋圏をいいます。東京圏とは東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県をいいます。大阪圏とは滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県をいいます。名古屋圏とは愛知県、三重県及び岐阜県をいいます。

注2. 工業地区とは、経済産業省「工業統計表」における工業地区をいいます。

(2) 保有資産の概要

2020年1月31日現在、本投資法人が保有する主要な資産（帳簿価額上位10物件）の概要は以下のとおりです。

不動産等の名称	帳簿価額 (百万円)	賃貸可能 面積 (㎡) (注1)	賃貸面積 (㎡) (注2)	稼働率 (%) (注3)	対総賃貸事業 収入比率 (%) (注3)	主たる用途
I I F 羽田空港メンテナンスセンター	37,986	81,995.81	81,995.81	100.0	13.7	インフラ施設
I I F 神戸地域冷暖房センター	15,894	11,476.05	11,476.05	100.0	3.2	インフラ施設
I I F 東雲ロジスティクスセンター（注4）	12,853	27,493.29	27,493.29	100.0	3.8	物流施設
I I F 大阪住之江ロジスティクスセンターI	12,013	52,201.30	52,201.30	100.0	(注5)	物流施設
I I F 福岡箱崎ロジスティクスセンターII	10,242	51,385.32	51,385.32	100.0	(注5)	物流施設
I I F 三鷹カードセンター	9,379	21,615.01	21,615.01	100.0	3.5	工場・研究開発施設等
I I F 大阪此花ロジスティクスセンター	8,630	46,262.20	46,262.20	100.0	(注5)	物流施設
I I F 昭島ロジスティクスセンター	8,418	31,071.21	31,071.21	100.0	(注5)	物流施設
I I F 品川ITソリューションセンター	7,910	7,057.03	5,128.71	72.7	(注5)	インフラ施設
I I F 蒲田R&Dセンター	7,529	21,896.56	21,896.56	100.0	(注5)	工場・研究開発施設等
合計	130,859	352,453.78	350,525.46	99.5	39.3	

注1. 「賃貸可能面積」は、不動産及び信託不動産に係る各賃貸借契約書に表示された建物又は土地（底地の場合）に係る賃貸面積及び賃貸借契約を締結していない区画の賃貸可能面積の合計面積を記載しております。

注2. 「賃貸面積」は、不動産及び信託不動産に係る各賃貸借契約書に表示された建物又は土地に係る賃貸面積を記載しております。

注3. 「稼働率」（当該計算期間末の賃貸可能面積に対して賃貸面積が占める割合）及び「対総賃貸事業収入比率」は、小数点第二位を四捨五入しております。

注4. 本投資法人が不動産信託受益権の53%を保有する準共有物件であります。「賃貸可能面積」及び「賃貸面積」は信託受益権の準共有持分割合53%を乗じて記載しております。

注5. 「対総賃貸事業収入比率」につきましては、テナントからの同意が得られていないため非開示とさせていただきます。

2020年1月31日現在、本投資法人が保有する物流施設、工場・研究開発施設等及びインフラ施設（不動産及び不動産を主な信託財産とする信託受益権）は以下のとおりです。

不動産等の名称	所在地 (注1)	所有形態	賃貸可能面積 (㎡) (注2)	期末算定価額 (百万円) (注3)	帳簿価額 (百万円)
I I F 東雲 ロジスティクスセンター (注4)	東京都江東区東雲二丁目 13番32号	不動産信託 受益権	27,493.29	17,437	12,853
I I F 野田 ロジスティクスセンター	千葉県野田市西三ヶ尾340 番13	不動産信託 受益権	38,828.10	9,090	5,280
I I F 新砂 ロジスティクスセンター	東京都江東区新砂三丁目5 番15号	不動産信託 受益権	5,741.75	7,530	5,151
I I F 越谷 ロジスティクスセンター	埼玉県越谷市流通団地四 丁目1番1	不動産信託 受益権	10,113.50	3,130	1,736
I I F 西宮 ロジスティクスセンター	兵庫県西宮市西宮浜一丁 目2番	不動産信託 受益権	17,200.00	3,000	1,999
I I F 習志野 ロジスティクスセンター (底地)	千葉県習志野市茜浜三丁 目34番9	不動産	19,834.71	3,010	1,223
I I F 習志野 ロジスティクスセンター II (注5)	千葉県習志野市茜浜三丁 目34番1	不動産信託 受益権	83,905.16	6,420	4,657
I I F 厚木 ロジスティクスセンター II	神奈川県厚木市船子字北 谷602番9	不動産	20,661.13	4,120	3,178
I I F 横浜都筑 ロジスティクスセンター	神奈川県横浜市都筑区川 向町字南耕地747番	不動産信託 受益権	9,615.82	3,500	2,294
I I F さいたま ロジスティクスセンター	埼玉県さいたま市北区吉 野町一丁目398番3	不動産信託 受益権	8,995.00	2,180	1,423
I I F 名古屋 ロジスティクスセンター	愛知県名古屋市中央区柳 田町二丁目27番	不動産	8,721.01	1,620	1,167
I I F 厚木 ロジスティクスセンター III	神奈川県厚木市上依知字 上ノ原3007番7	不動産信託 受益権	16,584.64	3,130	2,393
I I F 川口 ロジスティクスセンター	埼玉県川口市緑町5-3	不動産	11,705.02	4,490	2,116
I I F 神戸 ロジスティクスセンター	兵庫県神戸市灘区摩耶埠 頭2番10	不動産信託 受益権	39,567.74	7,780	5,206
I I F 東大阪 ロジスティクスセンター	大阪府東大阪市若江東町 六丁目7番46	不動産	20,495.06	3,230	2,501
I I F 柏 ロジスティクスセンター	千葉県柏市鷺野谷1027番1	不動産	17,379.78	2,930	1,839
I I F 三郷 ロジスティクスセンター	埼玉県三郷市泉三丁目5番	不動産信託 受益権	19,019.71	5,450	3,414
I I F 入間 ロジスティクスセンター	埼玉県入間市大字南峯字 東武蔵野660番2	不動産信託 受益権	17,881.65	4,140	3,021
I I F 鳥栖 ロジスティクスセンター	佐賀県鳥栖市蔵上町字内 精127番1	不動産信託 受益権	13,862.05	2,000	1,489
I I F 印西 ロジスティクスセンター	千葉県印西市松崎台二丁 目6番1	不動産信託 受益権	5,490.00	1,380	1,014
I I F 盛岡 ロジスティクスセンター	岩手県紫波郡矢巾町大字 広宮沢第4地割311番地	不動産信託 受益権	8,001.57	1,250	567
I I F 広島 ロジスティクスセンター	広島県広島市佐伯区五日 市港三丁目22番4	不動産信託 受益権	22,768.24	4,520	3,314
I I F 泉大津 e-shopロジスティクスセン ター (底地)	大阪府泉大津市なぎさ町8 番1号	不動産信託 受益権	48,932.00	4,410	4,178
I I F 泉佐野 フードプロセス&ロジステ ィクスセンター	大阪府泉佐野市りんくう 往来北2番11	不動産	13,947.83	1,050	931
I I F 京田辺 ロジスティクスセンター	京都府京田辺市大住濱55 番13	不動産信託 受益権	33,243.99	7,530	5,664
I I F 福岡古賀 ヴィークルロジスティクス センター (底地)	福岡県古賀市青柳1134番1	不動産	30,815.97	1,010	914
I I F 福岡東 ロジスティクスセンター	福岡県福岡市東区蒲田四 丁目9番1	不動産信託 受益権	11,262.86	2,100	1,913

不動産等の名称	所在地 (注1)	所有形態	賃貸可能面積 (㎡) (注2)	期末算定価額 (百万円) (注3)	帳簿価額 (百万円)
I I F大阪此花 ロジスティクスセンター	大阪府大阪市此花区島屋 四丁目4番51号	不動産信託 受益権	46,262.20	9,820	8,630
I I F加須 ロジスティクスセンター	埼玉県加須市新利根二丁 目6番1	不動産信託 受益権	17,744.41	2,840	2,591
I I F羽村 ロジスティクスセンター	東京都羽村市神明台四丁 目8番地16	不動産信託 受益権	3,892.66	934	928
I I F福岡箱崎 ロジスティクスセンター I	福岡県福岡市東区箱崎ふ 頭四丁目14番31号	不動産信託 受益権	24,967.58	5,380	5,230
I I F福岡箱崎 ロジスティクスセンター II	福岡県福岡市東区箱崎ふ 頭四丁目1番18号	不動産信託 受益権	51,385.32	11,400	10,242
I I F板橋 ロジスティクスセンター	東京都板橋区東坂下二丁 目7番7号	不動産信託 受益権	5,057.68	1,980	1,741
I I F仙台大和 ロジスティクスセンター	宮城県黒川郡大和町まい の二丁目3番15	不動産信託 受益権	15,555.15	1,700	1,571
I I F太田 ロジスティクスセンター	群馬県太田市安養寺町236 番1	不動産	6,900.01	1,160	1,015
I I F大阪住之江 ロジスティクスセンター I	大阪府大阪市住之江区柴 谷一丁目2番32	不動産信託 受益権	52,201.30	14,400	12,013
I I F大阪住之江 ロジスティクスセンター II	大阪府大阪市住之江区柴 谷一丁目2番34	不動産信託 受益権	12,299.76	2,810	2,550
I I F盛岡 ロジスティクスセンター II	岩手県紫波郡矢巾町流通 センター南二丁目4番5	不動産信託 受益権	12,383.30	1,600	1,386
I I F札幌 ロジスティクスセンター	北海道札幌市白石区米里 三条三丁目2番1	不動産信託 受益権	13,064.75	2,600	2,506
I I F常陸那珂港 ロジスティクスセンター (底地)	茨城県那珂郡東海村大字 照沼字渚768番42他	不動産	20,000.00	1,210	1,193
I I F郡山 ロジスティクスセンター	福島県郡山市大槻町字向 原213番	不動産信託 受益権	17,533.15	3,180	2,538
I I F神戸西 ロジスティクスセンター (底地)	兵庫県神戸市西区見津が 丘四丁目10番4	不動産信託 受益権	33,000.00	2,250	2,047
I I F兵庫たつのロジステ ィクスセンター	兵庫県たつの市揖西町長 尾字タイ山300番2他	不動産信託 受益権	25,186.78	4,400	4,127
I I F昭島ロジスティクス センター	東京都昭島市拝島町字小 欠3928番4	不動産信託 受益権	31,071.21	8,520	8,418
I I F岐阜各務原ロジステ ィクスセンター	岐阜県各務原市川島竹早 町字竹早2番8他	不動産信託 受益権	16,708.51	2,820	2,502
I I F戸塚 テクノロジーセンター (底地)	神奈川県横浜市戸塚区名 瀬町344番1 他	不動産信託 受益権	31,442.47	5,380	4,553
I I F横浜都筑 テクノロジーセンター	神奈川県横浜市都筑区北 山田四丁目25番2号	不動産	4,655.48	1,340	1,255
I I F三鷹 カードセンター	東京都三鷹市下連雀七丁 目5番14号	不動産信託 受益権	21,615.01	10,100	9,379
I I F蒲田 R&Dセンター	東京都大田区南蒲田二丁 目16番46	不動産信託 受益権	21,896.56	8,380	7,529
I I F川崎 サイエンスセンター	神奈川県川崎市川崎区殿 町三丁目25番19号	不動産	4,857.73	3,000	1,991
I I F相模原 R&Dセンター	神奈川県相模原市中央区 南橋本三丁目1番35	不動産信託 受益権	19,328.40	4,420	3,334
I I F横浜新山下 R&Dセンター	神奈川県横浜市中区新山 下一丁目16番5	不動産信託 受益権	4,887.83	4,240	3,832
I I F掛川 マニュファクチュアリング センター (底地)	静岡県掛川市淡陽30番地	不動産信託 受益権	66,171.92	1,760	1,572
I I F浦安 マシナリーメンテナンスセ ンター (底地)	千葉県浦安市鉄鋼通り三 丁目195番	不動産	7,925.94	1,660	1,345
I I F横須賀 テクノロジーセンター	神奈川県横須賀市神明町1 番15	不動産信託 受益権	13,779.77	4,490	4,235
I I F 湘南テクノロジーセンター	神奈川県高座郡寒川町一 之宮六丁目1番1	不動産信託 受益権	7,244.71	1,340	1,303

不動産等の名称	所在地 (注1)	所有形態	賃貸可能面積 (㎡) (注2)	期末算定価額 (百万円) (注3)	帳簿価額 (百万円)
I I F 広島 マニュファクチュアリング センター (底地)	広島県広島市中区江波南 二丁目1461番1	不動産信託 受益権	23,106.75	1,870	1,693
I I F 戸塚 マニュファクチュアリング センター (底地)	神奈川県横浜市戸塚区上 矢部町字九日谷2277番4他	不動産信託 受益権	19,458.49	2,590	2,413
I I F 厚木 マニュファクチュアリング センター (底地)	神奈川県厚木市森の里東 土地区画整理事業地内街 区 番号1画地 番号1他 (代表地番) 厚木市下 古沢字紅葉山857他)	不動産信託 受益権	64,327.54	5,320	5,005
I I F つくばマニュファク チュアリングセンター (底地)	茨城県龍ケ崎市向陽台一 丁目9番1	不動産	17,721.03	1,320	957
I I F 新川崎 R&D センタ ー	神奈川県川崎市幸区新小 倉1番2号	不動産信託 受益権	11,894.29	8,540	6,583
I I F 市川フードプロセス センター	千葉県市川市東浜一丁目1 番1の2他	不動産信託 受益権	27,424.22	6,340	6,408
I I F 岐阜各務原マニュフ ァクチュアリングセンター (底地)	岐阜県各務原市川島竹早 町字竹早3番他	不動産	12,551.51	264	249
I I F 神戸地域冷暖房センター	兵庫県神戸市中央区東川 崎町一丁目8番2号	不動産信託 受益権	11,476.05	14,500	15,894
I I F 羽田空港 メンテナンスセンター	東京都大田区羽田空港三 丁目5番1号、2号	不動産	81,995.81	41,300	37,986
I I F 座間 I T ソリューションセンター	神奈川県座間市東原五丁 目1番78	不動産信託 受益権	10,931.89	5,530	5,043
I I F 品川データセンター	東京都品川区二葉二丁目9 番15号	不動産	19,547.11	6,940	5,296
I I F 大阪豊中 データセンター	大阪府豊中市新千里西町 一丁目1番8号	不動産信託 受益権	20,027.14	6,340	5,537
I I F 大阪南港 I T ソリューションセンター	大阪府大阪市住之江区南 港北一丁目1番23号	不動産信託 受益権	18,429.14	2,430	1,193
I I F 名古屋港 タンクターミナル (底地)	愛知県名古屋港区潮見 町37番31	不動産	51,583.70	2,240	1,998
I I F 品川 I T ソリューションセンター	東京都品川区西五反田四 丁目31番18	不動産信託 受益権	7,057.03	7,170	7,910
I I F 東松山 ガスタンクメンテナンスセ ンター (底地)	埼玉県東松山市新郷75番1	不動産	12,880.38	756	729
合 計			1,601,499.25	356,001	297,921

注1. 「所在地」は、住居表示若しくは登記簿上の土地地番（複数ある場合にはそのうちの一筆）を記載しております。

注2. 「賃貸可能面積」は、不動産及び信託不動産に係る各賃貸借契約書に表示された建物又は土地（底地の場合）に係る賃貸面積及び賃貸借契約を締結していない区画の賃貸可能面積の合計面積を記載しております。ただし、I I F 新砂ロジスティクスセンターについては、登記簿上の延床面積を記載しております。また、I I F 習志野ロジスティクスセンターⅡについては、信託不動産である土地の賃貸可能面積と借地権付建物の賃貸可能面積の合計を記載しております。

注3. 「期末算定価額」は、投資法人規約に定める資産評価の方法及び基準並びに一般社団法人投資信託協会の定める規則に基づき、不動産鑑定士による鑑定評価額又は調査価額を記載しております。

注4. 本投資法人が不動産信託受益権の一部を保有する準共有物件である、I I F 東雲ロジスティクスセンター（準共有持分53%）の「賃貸可能面積」については、賃貸借契約書に表示された総賃貸可能面積に信託受益権の準共有持分割合を乗じ、小数点第三位をそれぞれ四捨五入して記載しております。

注5. I I F 習志野ロジスティクスセンターⅡについて、本投資法人は、底地と借地権付建物のそれぞれを信託財産とする二つの信託受益権を保有しております。底地及び借地権付建物は、それぞれテナントが異なる賃貸借契約が締結されている（底地の賃借人は借地権付建物の信託受託者）ことから、「賃貸可能面積」については底地の賃貸可能面積58,070.00㎡と借地権付建物の賃貸可能面積25,835.16㎡とを合算した数値を記載しております。

本投資法人が投資する物流施設、工場・研究開発施設等及びインフラ施設毎の賃貸事業の状況は以下のとおりです。

不動産等の名称	前 期 (自 2019年 2月 1日 至 2019年 7月31日)					当 期 (自 2019年 8月 1日 至 2020年 1月31日)				
	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)
I I F東雲 ロジスティクスセンター	1	100.0	400	365	4.4	1	100.0	403	362	4.2
I I F野田 ロジスティクスセンター	2	100.0	非開示 (注4)	209	2.5	2	100.0	非開示 (注4)	208	2.4
I I F新砂 ロジスティクスセンター	1	100.0	179	160	2.0	1	100.0	190	169	2.0
I I F厚木ロジスティク スセンター(注5)	1	100.0	非開示 (注4)	32	0.4	-	-	-	-	-
I I F越谷 ロジスティクスセンター	1	100.0	75	70	0.9	1	100.0	75	69	0.8
I I F西宮 ロジスティクスセンター	2	100.0	非開示 (注4)	91	1.1	2	100.0	非開示 (注4)	82	1.0
I I F習志野 ロジスティクスセンター (底地)	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.4
I I F習志野ロジス ティクスセンターⅡ (注6)	2	100.0	非開示 (注4)	172	2.1	2	100.0	非開示 (注4)	176	2.0
I I F厚木ロジス ティクスセンターⅡ	1	100.0	非開示 (注4)	112	1.4	1	100.0	非開示 (注4)	113	1.3
I I F横浜都筑 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	69	0.8	1	100.0	非開示 (注4)	65	0.8
I I Fさいたま ロジスティクスセンター	1	100.0	66	62	0.8	1	100.0	66	61	0.7
I I F名古屋 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	35	0.4	1	100.0	非開示 (注4)	42	0.5
I I F厚木ロジス ティクスセンターⅢ	1	100.0	非開示 (注4)	76	0.9	1	100.0	非開示 (注4)	83	1.0
I I F川口 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	106	1.3	1	100.0	非開示 (注4)	110	1.3
I I F神戸 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	180	2.2	1	100.0	非開示 (注4)	180	2.1
I I F東大阪 ロジスティクスセンター	2	97.3	非開示 (注4)	98	1.2	2	97.3	非開示 (注4)	89	1.0
I I F柏 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	74	0.9	1	100.0	非開示 (注4)	73	0.9
I I F三郷 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	116	1.4	1	100.0	非開示 (注4)	117	1.4
I I F入間 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	105	1.3	1	100.0	非開示 (注4)	104	1.2
I I F鳥栖 ロジスティクスセンター	2	100.0	非開示 (注4)	53	0.6	2	100.0	非開示 (注4)	53	0.6
I I F印西 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.4
I I F盛岡 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.4
I I F広島 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	120	1.5	1	100.0	非開示 (注4)	120	1.4
I I F泉大津e-shop ロジスティクスセンター (底地)	1	100.0	非開示 (注4)	111	1.4	1	100.0	非開示 (注4)	111	1.3

不動産等の名称	前 期 (自 2019年 2月 1日 至 2019年 7月31日)					当 期 (自 2019年 8月 1日 至 2020年 1月31日)				
	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)
I I F 泉佐野 フードプロセス& ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	29	0.4	1	100.0	非開示 (注4)	26	0.3
I I F 京田辺 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	172	2.1	1	100.0	非開示 (注4)	174	2.0
I I F 福岡古賀ヴィーク ルロジスティクスセンタ ー(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	27	0.3	1	100.0	非開示 (注4)	27	0.3
I I F 福岡東 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	51	0.6	1	100.0	非開示 (注4)	51	0.6
I I F 大阪此花 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	218	2.7	1	100.0	非開示 (注4)	212	2.5
I I F 加須 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	67	0.8	1	100.0	非開示 (注4)	67	0.8
I I F 羽村 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	19	0.2	1	100.0	非開示 (注4)	21	0.2
I I F 福岡箱崎ロジステ ィクスセンターⅠ	3	100.0	非開示 (注4)	124	1.5	3	100.0	非開示 (注4)	118	1.4
I I F 福岡箱崎ロジステ ィクスセンターⅡ	5	100.0	非開示 (注4)	239	2.9	5	100.0	非開示 (注4)	233	2.7
I I F 板橋 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	39	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.4
I I F 仙台大和ロジステ ィクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	46	0.6	1	100.0	非開示 (注4)	46	0.5
I I F 太田 ロジスティクスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	33	0.4	1	100.0	非開示 (注4)	33	0.4
I I F 大阪住之江ロジス ィクスセンターⅠ	1	100.0	非開示 (注4)	275	3.4	1	100.0	非開示 (注4)	253	2.9
I I F 大阪住之江ロジス ィクスセンターⅡ	1	100.0	非開示 (注4)	70	0.9	1	100.0	非開示 (注4)	59	0.7
I I F 盛岡ロジスティク スセンターⅡ	1	100.0	非開示 (注4)	40	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	39	0.5
I I F 札幌ロジスティク スセンター	1	100.0	非開示 (注4)	60	0.7	1	100.0	非開示 (注4)	65	0.8
I I F 常陸那珂港 ロジスティクスセンター (底地)	1	100.0	非開示 (注4)	28	0.3	1	100.0	非開示 (注4)	27	0.3
I I F 郡山 ロジスティクスセンター	2	100.0	非開示 (注4)	101	1.2	2	100.0	非開示 (注4)	96	1.1
I I F 神戸西 ロジスティクスセンター (底地)	1	100.0	非開示 (注4)	43	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	40	0.5
I I F 兵庫たつのロジス ィクスセンター(注7)	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	118	1.4
I I F 昭島ロジスティク スセンター(注7)	1	100.0	非開示 (注4)	61	0.7	1	100.0	非開示 (注4)	177	2.1
I I F 岐阜各務原ロジス ィクスセンター(注8)	-	-	-	-	-	1	100.0	非開示 (注4)	19	0.2
I I F 戸塚テクノロジー センター(底地)	1	100.0	154	137	1.7	1	100.0	154	137	1.6
I I F 横浜都筑 テクノロジーセンター	1	100.0	59	38	0.5	1	100.0	59	43	0.5
I I F 三鷹 カードセンター	1	100.0	364	310	3.8	1	100.0	370	314	3.6
I I F 蒲田 R&Dセンター	1	100.0	非開示 (注4)	238	2.9	1	100.0	非開示 (注4)	238	2.8

不動産等の名称	前 期 (自 2019年 2月 1日 至 2019年 7月31日)					当 期 (自 2019年 8月 1日 至 2020年 1月31日)				
	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)	テナント 総数 期末時点 (件) (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	賃貸事業 収入 期間中 (百万円)	賃貸NOI (百万円) (注3)	対総賃貸 NOI比率 (%) (注2)
I I F川崎サイエンスセンター	1	100.0	非開示 (注4)	82	1.0	1	100.0	非開示 (注4)	82	1.0
I I F相模原R&Dセンター	2	100.0	非開示 (注4)	135	1.6	2	100.0	非開示 (注4)	159	1.8
I I F横浜新山下R&Dセンター	1	100.0	非開示 (注4)	104	1.3	1	100.0	非開示 (注4)	104	1.2
I I F掛川 マニュファクチュアリングセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	42	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	42	0.5
I I F浦安 マシナリーメンテナンスセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.4	1	100.0	非開示 (注4)	37	0.4
I I F横須賀 テクノロジーセンター	1	100.0	非開示 (注4)	143	1.7	1	100.0	非開示 (注4)	141	1.6
I I F湘南 テクノロジーセンター	1	100.0	非開示 (注4)	39	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	40	0.5
I I F広島 マニュファクチュアリングセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	54	0.7	1	100.0	非開示 (注4)	49	0.6
I I F戸塚 マニュファクチュアリングセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	61	0.7	1	100.0	非開示 (注4)	57	0.7
I I F厚木 マニュファクチュアリングセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	128	1.6	1	100.0	非開示 (注4)	124	1.4
I I Fつくばマニュファクチュアリングセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.5	1	100.0	非開示 (注4)	38	0.4
I I F新川崎R&Dセンター(注7)	1	100.0	非開示 (注4)	64	0.8	1	100.0	非開示 (注4)	200	2.3
I I F市川フードプロセスセンター(注7)	2	100.0	非開示 (注4)	48	0.6	2	100.0	非開示 (注4)	150	1.7
I I F岐阜各務原マニュファクチュアリングセンター(底地)(注9)	1	100.0	非開示 (注4)	0	0.0	1	100.0	非開示 (注4)	7	0.1
I I F神戸 地域冷暖房センター	4	100.0	332	318	3.9	4	100.0	332	316	3.7
I I F羽田空港 メンテナンスセンター	1	100.0	1,445	960	11.7	1	100.0	1,442	953	11.0
I I F座間IT ソリューションセンター	1	100.0	非開示 (注4)	201	2.4	1	100.0	非開示 (注4)	201	2.3
I I F品川 データセンター	1	100.0	非開示 (注4)	178	2.2	1	100.0	非開示 (注4)	175	2.0
I I F大阪豊中 データセンター	1	100.0	非開示 (注4)	204	2.5	1	100.0	非開示 (注4)	230	2.7
I I F大阪南港IT ソリューションセンター	1	100.0	非開示 (注4)	73	0.9	1	100.0	非開示 (注4)	73	0.9
I I F名古屋港タンクターミナル(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	62	0.8	1	100.0	非開示 (注4)	62	0.7
I I F品川IT ソリューションセンター	7	98.9	非開示 (注4)	153	1.9	6	72.7	非開示 (注4)	179	2.1
I I F東松山 ガスタンクメンテナンスセンター(底地)	1	100.0	非開示 (注4)	18	0.2	1	100.0	非開示 (注4)	18	0.2
合計(注10)	95	100.0	10,131	8,207	100.0	94	99.8	10,562	8,640	100.0

注1. 「テナント総数」は、不動産及び信託不動産に係る賃借人の数を記載しており、合計欄には、不動産及び信託不動産に係る賃借人の数の単純合計を記載しております。

注2. 「稼働率」(当該計算期間末の賃貸可能面積に対して賃貸面積が占める割合)及び「対総賃貸NOI比率」は、小数点第二位を四捨五入し

ております。

注3. 「賃貸NOI」は、以下の方法により算定しております。

不動産賃貸事業利益 (不動産賃貸事業収益－不動産賃貸事業費用)＋減価償却費

注4. 賃貸事業収入等につきましては、テナントからの同意が得られていないため非開示とさせていただきます。

注5. 2019年3月29日付で準共有持分50%、2019年8月1日付で準共有持分50%をそれぞれ譲渡しております。

注6. I I F 習志野ロジスティクスセンターⅡについて、本投資法人は、底地と借地権付建物のそれぞれを信託財産とする二つの信託受益権を保有しております。底地及び借地権付建物は、それぞれテナントが異なる賃貸借契約が締結されている（底地の賃借人は借地権付建物の信託受託者）ことから、テナント総数は底地のテナント数と借地権付建物のテナント数の合計を記載しております。

注7. 2019年6月3日付で取得しております。

注8. 2019年12月19日付で取得しております。

注9. 2019年7月16日付で取得しております。

注10. 稼働率合計は、当該計算期間末の総賃貸可能面積に対して総賃貸面積が占める割合を表し、小数点第二位を四捨五入しております。

(3) 資本的支出の状況

① 資本的支出の予定

既存保有物件に関し、現在計画されている改修工事等に伴う資本的支出の予定額のうち主要なものは以下のとおりです。なお、下記工事予定金額には、会計上の費用に区分経理される部分が含まれております。

不動産等の名称	所在地	目的	予定期間	工事予定金額(百万円)		
				総額	当期支払額	既支払総額
II F 相模原 R&Dセンター	神奈川県 相模原市	外気調和機更新	2020年7月	96	—	—
II F 羽田空港 メンテナンスセンター	東京都大田区	昇降機主要部品更新 工事(2期/全3期)	2020年6月	60	—	—
II F 大阪住之江 ロジスティクスセンター I	大阪府大阪市	照明器具LED化工事	2020年1月～ 2020年3月	55	—	—

② 期中の資本的支出

既存保有物件において、当期に行った資本的支出に該当する主要な工事の概要は以下のとおりです。当期の資本的支出は788百万円であり、費用に区分された修繕費87百万円と合わせ、合計876百万円の工事を実施しております。

不動産等の名称	所在地	目的	期間	工事金額 (百万円)
II F 羽田空港 メンテナンスセンター	東京都大田区	昇降機主要部品更新工事 (1期/全3期)	2019年8月～2019年10月	59
II F 西宮 ロジスティクスセンター	兵庫県西宮市	1号棟外壁更新工事 (北・東・南)	2019年11月～2020年1月	53
その他	—	—	—	675
合計				788